

第 25 期 科学者委員会 学協会連携分科会  
第 3 回分科会議事要旨

1. 日時 令和 3 年 7 月 26 日（金） 16:00～19:30
2. 場所 オンライン会議
3. 出席者 勝野正章委員、溝端佐登史委員、若尾政希委員、小林武彦委員、  
小松浩子委員、丹下 健委員、望月眞弓委員、高田保之委員、  
田近英一委員、山口 周委員、米田雅子委員、高倉喜信委員  
北川雄光委員、熊谷日登美委員、中野義昭委員、川口慎介委員  
事務局 大山研次、森田健嗣

4. 資料

資料 1 学協会連携分科会委員名簿

資料 2 前回議事要旨

資料 3 最近の学協会連携をめぐる動き及び各分野（各部）の学協会の現状と課題

5. 議題

(1) 第 2 回分科会議事要旨（案）の承認

米田委員長より、資料 2 にもとづき、前回議事要旨案が説明され、承認された。

(2) 最近の学協会連携をめぐる動きについて

資料 3 にもとづき、米田委員長より第 3 部の状況、溝端委員より第 1 部の状況、丹下委員より第 2 部の状況が説明され、学術会議と学協会の連携の動きを確認した。

(3) 各分野（各部）の学協会の現状と課題

資料 3 にもとづき、各分野の学協会の現状と課題、および学術会議との連携の課題が、第 1 部から順に、説明された。

第 1 部に関して、溝端委員より経済学における状況として、日本経済学会連合の役割と個別の学協会の位置づけと変化、国際化への対応の状況が説明された。勝野委員より教育学における状況として、教育関連学会連絡協議会の活動と学協会の課題が説明された。若尾委員より歴史学における状況として、人文社会系学協会連合連絡会の現状および、連絡会にあたる日本歴史学協会の活動が説明された。

第 2 部に関して、北川委員より新型コロナウイルス感染症をめぐる日本医学会連合と学術会議の連携・協力が強まっていることが説明された。熊谷委員より一般社団法人男女共同参画学協会

連絡会の組織・活動が説明された。小林委員より基礎生物学について、生物科学学会連合の活動、課題、ほかの生物学系の学会連合の状況が説明された。小松委員より公衆衛生学・家政学・看護学等について、学協会の状況とともに新型コロナウイルス感染症により協力が拡大していることが説明された。高倉委員より日本薬学会における薬学系の連合体（協議会）設立準備状況が説明された。

第 3 部に関して、高田委員より日本工学会理論応用力学コンソーシアムの事業が紹介された。田近委員より地球惑星科学分野について、日本地球惑星科学連合の状況および課題が説明された。米田委員長より防災減災学術連携委員会が防災学術連携体と協力して、府省庁との連絡会を開くことが報告された。

それぞれの分野に対する質疑ののち、委員による意見交換が行われた。ポストコロナ時代・リモート・ネットワークへの対応と学協会のあり方、学協会の多様性・規模や性格の違い、連携や連合体形成と学術会議の関係といった点で分野間での多様性が確認されるとともに、中長期的課題、すなわち少子高齢化、国際競争力、学問の発展傾向などの点から分野を超えて学協会・学術会議に共有する課題もまた論点として確認された。さらに、分科会の活動として、第 24 期に発出した提言「学術情報流通の大変革時代に向けた学術情報環境の再構築と国際競争力強化」を受けて、活動の方向性に関しても論点となった。

大きくは学協会のあり方・方向性と学術会議との連携が検討課題として提起され、米田委員長より分科会として引き続き議論を深めることが提案されるとともに、次回分科会を 10 月総会前に開催することが承認された。